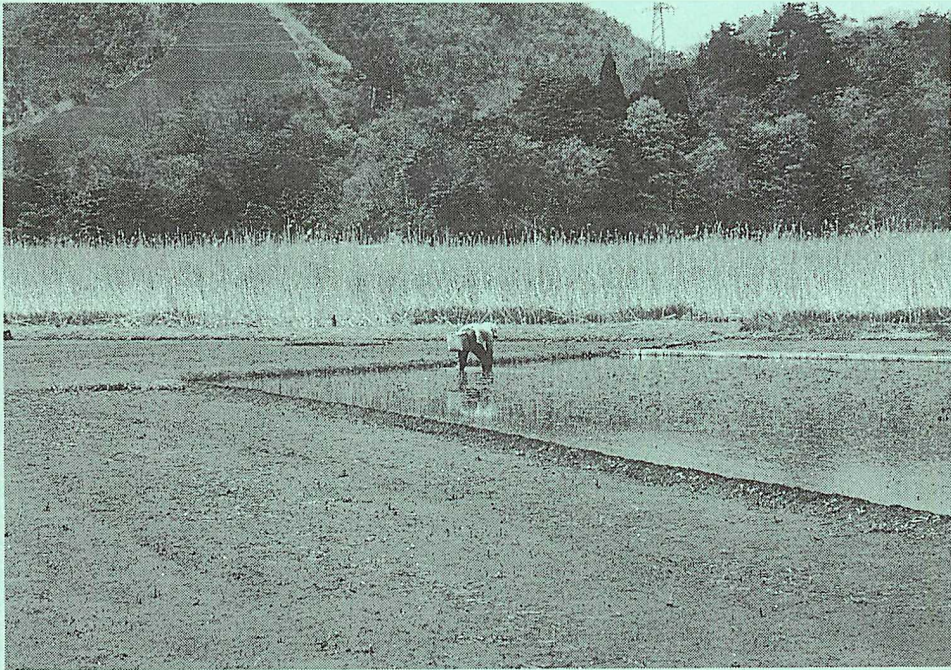


水草研究会会報

62号(1997年10月)



Bulletin of Water Plant Society, Japan

No. 62 (Oct. 1997)

水草研究会

目 次

John Kuo・相生啓子：オーストラリアの海草とマリンボール	1
荒金正憲：小田の池湿原（大分県湯布院町）の植生とフロラ，そして，その保全	8
浜島繁隆：濃尾平野南西域にみられる農業用水路の水草相の変化 —1979年と1996年の比較—	16
角野康郎：環境庁版レッドリスト（1997）に挙げられた水生植物	18
木下 覚：徳島県におけるミクリ属の分布	22
濱谷修一・橋本清美：温室内でオニバスの冬越しに成功	25
長崎 摂：ヒメコウホネのフェノロジーと植食性昆虫との相互作用	27

短 報

久米 修・和気俊郎：休耕田でオニバスが生育	28
水草研究会第19回全国集会（徳島）報告	29
地方版レッドデータブックの紹介	32

文献リスト，書評

〔表紙写真〕中池見湿地（福井県敦賀市中池見湿地，1996年4月25日）

水田は多くの生きものの生活を育んできた日本の代表的な湿地環境である。しかし，農業の多用と大型機械の導入に代表される近代的農業形態への転換にともない，数十年前まではどこの水田にも見られた水田雑草や昆虫，蛙，魚たちが姿を消した。しかし，さまざまな事情で大型機械が導入できず伝統的な農業形態が続けられてきた場所には，驚くほど多様な生きものたちが今も息づいている。

伝統的な農業が守ってきた生物多様性と，その危機的状況が認識されるようになり，人間の営みによって守られてきた生きものの世界をどのようにして守ってゆくかが，今，大きな保全の課題となっている。

写真の中池見湿地（25ha）も，水田生態系の原風景が保存されてきた日本では残り少ない場所である。今，天然ガス基地の建設計画で揺れている。 （角 野 康 郎）